

意見検討結果一覧表

（案名：大規模公共事業再評価についての意見募集
 対象事業：千厩川（中流）広域河川改修事業（一関市））

番 号	意 見	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
1	<p>地球温暖化により、千厩川は今後、毎年豪雨災害を発生させる河川と成る事が考えられる。本案1ページの「石積護岸」では《想定外の増水・護岸決壊》が生じるかもしれない。景観は地球温暖化によって自然に崩壊していく事を念頭に、《枯れ川に変える》レベルでの河川改修が必要と成るかもしれない。地球温暖化で植生も希少野生動植物も《手を加えずとも保護していても絶滅する》。その点を考え、まず《浸水被害防止を第一》と考える河川改修を行うべきと考える。</p>	<p>千厩川（中流）では、過去に大規模な浸水被害が発生していることから、治水安全度の向上を図るため河川改修を実施しているところであり、本事業においては、30年に1度の確率で発生すると考えられる洪水を安全に流下させることを目標として進めているところです。</p> <p>一方、近年、激甚化・頻発化する豪雨災害の状況を踏まえ、目標を上回る規模の洪水は発生するという認識のもと、住民の円滑かつ迅速な避難を促すため、計画規模の降雨による浸水想定区域図に加え、想定最大規模の降雨（※）による浸水想定区域図を作成・公開しているほか、リアルタイムの水位情報やカメラ画像の公開、一定の水位を超えた場合の市町村への通知、報道機関に対する周知の協力依頼を行うなど、避難に資するための防災情報の提供を実施しているところです。</p> <p>また、県では、全ての河川において「多自然川づくり」を実施することとしており、本事業においては、河川改修前の石積護岸の景観や、石積の隙間に生息する生物の生息環境を可能な限り保全するよう努めています。</p> <p>今後も、治水上の安全性の確保と河川環境の保全との調和を目指し、取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>なお、河川改修において新たに整備する石積護岸は、自然石の背面にアンカー材（鉄線）が固定されたものを使用しており、アンカー材と自然石背面の埋戻し材料とを一体化させることにより、洪水に対する強度を有する護岸となっています。</p> <p>※ 想定最大規模の降雨は、当該河川の流域に過去に降った雨だけでなく、近隣の河川の流域に降った雨は当該河川の流域でも同様に降ると考え、全国を降雨の特性が似ている15の地域に分割し、それぞれの地域において過去に観測された最大の降雨量によって設定しています。本県では、この地域区分のうち「東北東部」「東北西部」のどちらかを適用して、各河川において想定最大規模降雨が年超過確率1/1000年確率程度の降雨量を上回るように設定しています。</p>	D

「決定への反映状況」欄には、次に掲げる区分。

区 分	内 容
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）